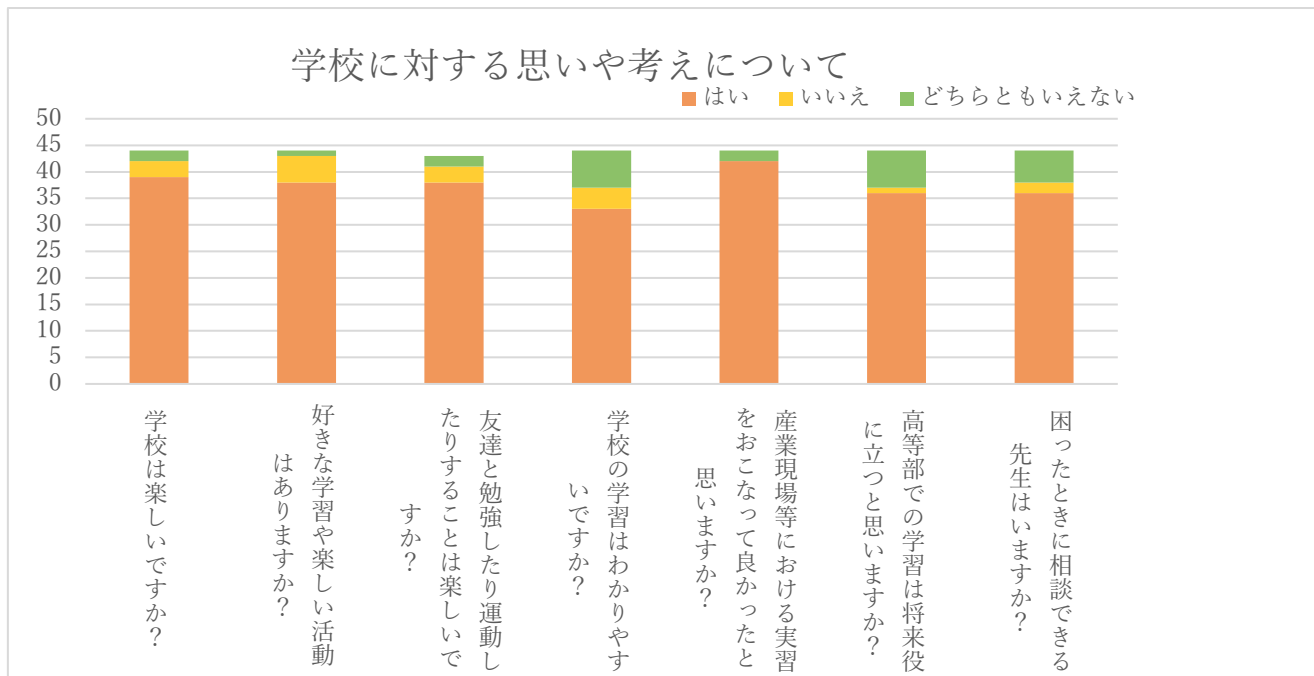


高等部の生徒のアンケート集計結果

(1) 学校に対する思いや考え



<分析>

すべての項目で「はい」と答えている割合が「いいえ」「どちらともいえない」を大きく上回っている。

「好きな学習や楽しい活動がありますか」が「いいえ」の数が一番多かった。また、「学校の学習はわかりやすいですか」の質問に対し「いいえ」「どちらともいえない」をあわせた数が他の項目より多くなっている。このことについては、今までも取り組んできたことではあるが、生徒自身が「わかった」と感じられるように、どのように教えるかを再度見直す必要がある。

「産業現場等における実習をやって良かったと思いますか」については、「いいえ」と回答した生徒はおらず、産業現場等における学習は将来の生活や仕事についてのイメージをより現実のものとして捉えやすく、有意義な学習であると感じていることがうかがえる。

(2) 好きな教科・苦手な教科

職業をのぞくすべての教科で好きな教科、嫌いな教科があがっていた。

その中で、特に記述が多かったのが国語と数学である。以下に記述内容を示した。

<国語>

好き	嫌い
漢字が好き 漢字を書いたり読み取ることが好きだから わかりやすくしずかに勉強できるから 漢字と読む練習が好き 小さい頃から漢字を書くことが好きだったから	漢字の読み書きが苦手だから 漢字がたくさんあって難しいから 文章と読み取りが苦手だから 文章を読んで解くには苦手

<数学>

好き	嫌い
計算が楽しいから、好きだから 計算の問題があるから おもしろい 計算が得意だから	計算問題や文章問題などの式を作るのが苦手です。 計算の仕方や答えの出し方など何通りも有り、さらに記号もかなりの数があり、おぼえられない。 引き算と割り算をかくのが苦手 3桁の計算や4桁の計算など桁が増えていくほど苦手だから 計算が苦手で覚えるのが難しいから 図形の計算が難しくてわからないことがある。 計算が多くてやり方が一つで(ないから?)わからない 数字が多くなると数えるのが多くて大変

<分析>

生徒の記述から自分の得意なことや苦手さに気がついていることがうかがえる。特に数学については、計算は好きの記述があったが、読み取る力やイメージする力が必要な文章題についての苦手さや桁数が大きいと覚えられないなど、知的障がいの特徴からくる難しさを感じている生徒がいることがわかった。また、解き方についてもいくつかのパターンがあると難しいと感じてしまうことから、自分に合った学び方を見つけられるようにしていく必要がある。

(3) こんな学校にしたい

生徒からの意見は、大きく4つに分類された。

- ① 「1組、2組、3組の全体で集まった授業がしたい。」など授業の形態に関すること。
 - ② 「数学をもっとやりたい。」「英語を頑張りたい。」「音楽や体育、作業の勉強をもっとしたい。」「職業で生活の大切さをもっと学びたい。」「A Iの勉強がしたい。」等学習で頑張りたいこと。
 - ③ 「みんなともっと仲良くできる学校にしたい。」「笑顔になれるような学校にしたい。」等学校生活全般に関すること。
 - ④ 「美術部がある学校にしたい。」部活動に関すること。
- 前向きな意見が多く、積極的に学習をしていこうとする生徒像が見える結果となった。

<全体分析>

学校生活を前向きに捉えている生徒が多い。

学習については、「わかるようになりたい」「できるようになりたい」と考えていて、「〇〇を頑張る」「〇〇の勉強がしたい」など、学習にも積極的に関わろうとする姿が見られる。また、「A Iの勉強がしたい。」など現代的な意見なども上がっているため、情報の学習についても力を入れていく必要がある。

生徒は、自分の苦手さを理解しており、克服したいと思っている姿が見えてきた。たくさんのことを覚えられなかったり、一度にたくさん情報があることで混乱してしまったり等生徒の特性に応じた指導方法を見直すとともに、「できた経験」「わかった経験」から振り返るなど、生徒自身が自分の学び方をみつけられるように指導を工夫していく必要がある。